

TOKAS Project Vol. 3

東京デトロイトベルリン

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo
FESTIVAL

— アート・コミュニティの現在

東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団では、Tokyo Tokyo Festival の一環として「TOKAS Project Vol. 3」を実施します。

トーキョーアーツアンドスペース(TOKAS)では、2001年の開館以来、海外のアーティスト、キュレーター、アートセンターや文化機関などと協働して展覧会や関連プログラムを実施してきました。2018年より開始した TOKAS Project は、国際的な交流を促進し、多文化的な視点を通じて、アートや社会など、さまざまなテーマについて思考するプログラムです。

第3回となる TOKAS Project では、アーティストであり XYZcollective のディレクターとしても活動しているコブラとともに、東京、デトロイト、ベルリンにおけるアート・コミュニティの現在の姿を紹介する展覧会「東京デトロイトベルリン」を開催します。本リリースでは各アート・スペースの展示や作家についてご紹介します。

■ 展覧会概要

展覧会名： TOKAS Project Vol. 3 「東京デトロイトベルリン」

英語タイトル： TOKAS Project Vol. 3 “Tokyo Detroit Berlin”

会期： 2020年10月10日(土)～11月8日(日)

会場： トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京都文京区本郷2-4-16）

開館時間： 11:00 - 19:00（最終入場は30分前まで）

休館日： 月曜日

入場料： 無料

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース

共同企画： コブラ

参加ギャラリー： シーフエ・ツエーネ (Schiefe Zähne・ベルリン)、ワット・パイプライン (What Pipeline・デトロイト)、XYZcollective (東京)、4649 (東京)

協力： ミサコ&ローゼン、Meliksetian | Briggs

ウェブサイト： www.tokyoartsandspace.jp/

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース 広報担当： 市川、武智

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

美術館や公的な機関ではなく、アート・スペースやアーティスト・ラン・スペースなど、自律的なアートのコミュニティが行う国際交流に注目し、TOKAS 本郷で施設ごとに活動を紹介します。

本展は、2010 年にトーキョーワンダサイト(現 TOKAS)のレジデンス・プログラムに参加し、東京とは異なる海外のアート・コミュニティの在り方を経験したことを契機に、東京でアーティスト・ラン・スペース XYZcollective を始めたコブラと協働して開催します。東京、デトロイト、ベルリンからアート・スペースやそこで活動する作家を取り上げ、展覧会をとおして交流や対話を促進させ、各都市におけるアート・コミュニティの現在の姿を浮かび上がらせます。

■ 関連イベント

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オープニング・レセプション及びトークは実施いたしません。
後日、展覧会紹介の動画を展覧会のウェブサイトで公開予定です。

■ 本展共同企画者

コブラ COBRA

平成 22 年度二国間交流事業プログラム<メルボルン>

TEAM 15 MIHOKANNO 「Hello! MIHOKANNO」(TWS 渋谷、2009)などに参加

■プロフィール

1981 年千葉県生まれ。東京都を拠点に活動。2005 年多摩美術大学工芸学科卒業。
2010 年にトーキョーワンダサイトのレジデンス・プログラムに参加し、メルボルンに 3 ヶ月間滞在。2011 年よりアーティスト・ラン・スペース XYZcollective を立ち上げ、代表・ディレクターを務める。他愛のない出来事を主題としてコミカルな映像作品を制作している。近年の主な展覧会に「life and limbs」(Swiss Institute Contemporary Art New York、2019)、「The Museum」(Fig、東京、2019)、「COBRA SOLO SHOW」(For Seasons、チューリッヒ、2019)など。



■ 参加ギャラリー／略歴／広報用画像

※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

シーフェ・ツェーネ Schiefe Zähne(ベルリン)

ディレクター:ハネス・シュミット

ベルリン、プレントラウアー・ベルクにある住居ビルの裏手に位置する、元工場の1階を利用したアート・スペース。

本展では、介在するイメージを通じて、自己認識、自己の確立や互いの関係性、あるいは目まぐるしく変化する政治的・経済的環境に対する主観への内省から、自他における多様な視点を発展させる作品を紹介します。ーハネス・シュミットー

展示作家:ルーカス・キッチュ、リチャード・サイズ、フィリップ・サイモン、トム・ハンフリーズ、エレーヌ・フォケ、アリアン・ミュラー、ヨナス・リップス、ソフィー・ラインホルト

URL: <http://www.schiefe-zaehne.com/>



1. トム・ハンフリーズ 《untitled (detail)》 2013 - 2018
釉薬、セラミックに転写
画像提供: トム・ハンフリーズ
2. エレーヌ・フォケ 「La Colline - Hélène Fauquet and Ryan Siegan Smith」 展示風景、2018
画像提供: シーフエ・ツェーネ、エレーヌ・フォケ

ワット・パイプライン What Pipeline (デトロイト)

ディレクター:ダニエル・スペリー、アリビア・ジビッチ

2013年にデトロイトで設立されたアーティスト・ラン・スペース。これまでアメリカ国内外の作家やアーティスト・コレクティブを紹介してきた。

本展では、物事を独自の目線で見ようとする精神と、ユーモアや不安、喜びというフィルターをとおした視点を共通して持つ3名の作家を紹介します。

ーダニエル・スペリー、アリビア・ジビッチー

展示作家: マリー・アン・エイトケン、マイケル・E・スミス、クインテッサ・マトランガ

URL: <http://whatpipeline.com/>

XYZcollective (東京)

ディレクター:コブラ、ミヤギフトシ

2011年、世田谷の倉庫を改装し、アーティスト・ラン・スペースの運営を開始。現在は巣鴨を拠点とし、国際的なネットワークを構築している。

「ユーモア」とはときに滑稽さを含んでいるが、しかし滑稽さとは必ずしも人を笑わせるものではない。そしてそれは人を惑わすこともある。これは笑って良いことなのか、そうではないことなのか?? 恐怖のような感覚や状況の瞬間に、ふと笑ってしまうこともある。本展はそんなユーモアとそうでない感覚を行き来するような展示です。ーコブラー

展示作家: バス・ヤン・アデル、トレヴァー・シミズ、中野浩二、堀ななみ、チャドウィック・ランタネン、コブラ

URL: <http://xyzcollective.org/>



3. マリー・アン・エイトケン

《Untitled (Textural Landscape)》 2010

画像提供: ワット・パイプライン

4. クインテッサ・マトランガ 《Cherry Bomb》 2020

画像提供: クインテッサ・マトランガ、ワット・パイプライン



5. 中野浩二 《わき》 2019

6. 堀ななみ 《追跡と闘争4》 2019

©XYZcollective and Artist

4649(東京)**ディレクター: 小林優平、清水将吾、高見澤ゆう**

3名のディレクターによるキュラトリアル・プロジェクト。海外の作家を紹介する展覧会や、海外で東京の若手作家による展覧会を企画。

アーティストであるディレクターの3名がなんとなく考えているテーマに関連する友達をケログ(清水)、村田(小林)、デラクルス(高見澤)それぞれ選びました。本展では、90年前後生まれの同世代の作家が、離れた場所で生活しながらも見えてくる共通の視点をとおして、自分たちのアーティスト・ラン・スペースとしての方向性を紹介します。—小林優平、清水将吾、高見澤ゆう—

展示作家: ベンジャミン・アサム・ケログ、ラファエル・デラクルス、村田冬実URL: <http://www.4-6-4-9.jp/>

7. ベンジャミン・アサム・ケログ

「Prophecy Club」展示風景 2019

画像提供: ベンジャミン・アサム・ケログ、MX gallery

8. ラファエル・デラクルス 《untitled》2020

画像提供: ラファエル・デラクルス、4649